

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100212	
法人名	(有)タックス	
事業所名	グループホーム花水月	
所在地	宮城県遠田郡美里町字叔廻前22-3	
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 29 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>おひさま広場で天気の良い日には筋力低下防止の為、グランドゴルフや散歩等している。又、放課後等デイサービスの子供達のサッカー観戦をし子供達と交流をしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 4 年 7 月 28 日	

<p>「グループホーム花水月」は、鳴瀬川の北側に沿って走る涌谷三本木線に面しており、北西にはJR小牛田駅がある。一般住宅を改装した木造2階建ての1階部分をホームとしている。宅老所から始まった介護事業はグループホームへと変わり、現在まで27年間の歴史を刻んでいる。ホームでの介護のあり方は前人から受け継ぎ、ホーム理念の「笑顔、元気を継続」をありのままに具現化している。前年に掲げた目標達成計画の「看取りについて検討する」は、看取りについての研修や職員と話し合いを持つなどの取り組みを行った。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 花水月)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の支援を通じ理念を実践する為に申し送りの中、会議などで振り返る機会を設け、いつでも目の届く所に掲示している。	理念に「笑顔、元気を継続」「家族と共に」「地域、医療、行政と連携を」を継続して掲げている。会議の際に、入居者の笑顔を引き出すために職員自らが笑顔で接することや健康への気遣いを啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が畑で取れた野菜や施設で使用する物品などを持ってきてくれる。又、広場で日光浴をしていると声をかけてくれる。	地域住民が防災協力員になっている。住民から、家族である高齢者への対応について相談を受けることもある。地元の行事についてはコロナ禍で中止になっており、参加できない状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の家庭での困り事を傾聴している。又2か月に1回ご家族に認知症やコロナウイルスについてのお便りを送っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での活動報告により運営推進会議の代替としている。	2か月毎に入居者の状況やホームの様子を報告書にてメンバーに送付している。会議は、地域包括支援センター職員や区長、民生委員、住民、家族代表で構成している。メンバーから意見をもらっていない。	書面であっても「会議」としての意義を確保していただきたい。次回から実施する予定としているので期待したい。加えて、送付先を記録に残すことについてもお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者についてや分からない事等、随時相談している。	運営推進会議の開催について、「書面会議」の取り組み方の助言をもらった。町からウイルス感染予防対策について、通知があった。集団指導を受けた。地域包括支援センターから空き室の問い合わせがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3か月に1回開催しその結果について介護職員への周知徹底に努めている。又内部研修から身体拘束の知識を深めている。	前回の会議での結論が有効に機能したか検討事項の振り返りを行っている。議事録で、具体的な点検事項や対応策、経過などを知ることができる。これを全職員に配布し「徘徊がいけないという考えを持たない」など、職員の意識の持ち方に働きかけている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などから高齢者虐待の知識を深め、虐待のない介護に努めている。	虐待について内部研修を行い、グレーゾーンの例に触れ「そうだったのか」など職員の内省につながった。職員の持つスキルを超える状況が虐待の要因になり得るとして、管理者は見極めと気づきに留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成しいつでも確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、十分な説明のもとに同意を得ている。また疑問や不安な事に対しても分かりやすく説明し理解してもらうよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者、ご家族とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くように心掛けている。	来訪する家族から家庭の現況を聞いたり、遠方の家族には入居者の様子を手紙にして毎月伝えている。介護計画書の説明をする際に、要望などを聞いている。家族からは、「元気で、皆と仲良く」の声が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者と職員は意見が言い合える関係性ができている。又、日々申し送りや会議の場でも意見を出し合っている。	「食事を摂らない人に粉ミルクを」や排便コントロールについてなど、入居者のケアに関する意見が多くある。職員の希望によって外部研修を受講することができ、その際は出勤扱いとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労務状況を把握しおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や一人ひとりの段階に応じた研修に参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者入居状況や入居利用者について意見交換等している。	同法人のデイサービスやケアホームの介護職員と、「コロナウイルス罹患の場合はどうする」や「空き室について」などの情報を交換をしている。病院の連携室に、退院後の対応や注意事項を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などに訪問し、情報収集するとともにご本人、ご家族の希望要望を聴き取りし関係づくりに努めている。又、入所前にホームの見学を可能な限りお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの困っていること、不安に思っていることなど何でも気軽に話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を確認した上で実行するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に生活を意識し、共に生活させて頂いている。又、職員だけでなく、利用者様同士も支え合いを大切にしている。支援をする側、される側という意識を持たず、お互いが協働し生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と意見交換、情報を共有し、同じ思いで支えていけるように取り組んでいる。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回のドライブで馴染みのある場所を訪ねたりしている。	毎月実施する外出の行き先は、入居者の意向を踏まえて、馴染みの場所が選ばれることが多い。2カ月に1回、理容室が来訪し馴染みになっている。本人の希望で、家族へ電話を繋ぐなど関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は見守りの中、利用者様同士の関係性、性格等を把握し、利用者様同士が関わり、支え合える関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の意見を確認した上で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族、関係者の方から希望、意向を聴き取り意見を尊重しながら本人の訴えを見逃す事のないよう気配りする。	自己表現が難しい入居者が多く、あてもなく歩いている時や何かを探するような仕草など、行動の意味を把握している。落ち着かない時は不安によるものと察知し、話しかけたり近くに居て安心してもらおう対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりこれまでの生活状況、経歴や生活歴を伺い理解して上での対応を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を常に把握して、受診記録ノート、介護記録等で変化を見逃すことのないように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意見を確認して現状把握したうえで意見を聴取してサービスが適切であるかを検討する。月に1回モニタリングをして介護計画に反映する。	介護目標のポイントは「健康第一」としている。本人意向の「楽しく賑やかに過ごしたい」へのサービス内容に「軽体操やレク活動に参加」を入れた。重度化した人の居室に、声掛けするケアの見直しを行った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、介護記録、受診記録ノートで利用者の状況を確認している。状況が変化した時は再アセスメントを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事が中止となり交流できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を重視し家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。	受診の際は、職員が同行しバイタルや変化の状態を伝えている。入居者ごとの「受診ノート」があり、受診経過や結果を記録している。年1回の歯科検診を実施しており、必要時は往診が可能となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に努めている。状態変化等の場合はかかりつけ医に電話し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行っている。退院時には退院後の対応や注意事項について細やかに情報を頂くようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの指針を文書化し掲示しホームでの出来ない部分を説明している。	看取り実施について研修を行い、それを受けて職員の意見交換をした。対応可能な在宅医療や訪問看護が近隣に無いことから、看取りの実施は難しく、従来通り病院にて終末期対応とする「終末期ケア対応方針」を継続することにした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり急変時に速やかに対応できるように備えている。AEDを設置し避難訓練時に使用方法の確認を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。又水害、地震発生時のマニュアルの確認も行っている。	防災協力員である住民の動向は確認するとどめた。訓練には業者が立ち合い、効果的な消火器の使い方の説明を受け、水消火器で実践した。夜間想定では、通報後の逆信は受け取らないことを共有した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	頻回に歩き回る入居者を、好きなカラオケや散歩に誘うなどして本人の立場に立った対応をしている。周辺症状のある人は、その時々で心理的に変化していることを理解し、言葉の掛け方に工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話で思いや希望を探ったり、少しの事でも自己決定できるような場面を設け目でみて選んでいただくなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてその日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、清潔感にも気をつけ支援している。服装等は自分で選んでもらっている。散髪は訪問理容を取り入れている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者には家族が持ってきた野菜の皮むき等を手伝って頂いている。旬の食材を取り入れ、季節を感じられる食事を心がけている。	食事毎に「バランスが良い」や「もう1品」など、法人栄養士から助言をもらっている。入居者の希望があれば食べたい物を用意している。正月や雛祭など季節の料理や卓上でのたこ焼き作りなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作る際にはバランス彩に配慮し個々に合わせた食事量、形態等を把握し食器や食べ方を工夫している。一人一人の食事、水分量を把握出来るようにしている。法人内の栄養士に献立を提出し意見を聞いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケア、義歯のケアを支援し状況に合わせて清潔保持に努めている。年に1回歯科検診を行っており、治療が必要な方は往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力に応じた排泄援助を行う事できるだけ自立に向けた支援を行っている。	排泄感覚のある人は自分の居室にポータブルトイレを置いて使用している。時間や本人の様子を見て声掛け誘導している。他はオムツを利用している。排泄支援として排便の有無に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれている食材の利用、水分摂取、乳製品を取り入れ便秘予防に努めている。必要に応じて病院から下剤を処方してもらうなど個々に応じた支援を心掛けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご利用者の体調や希望に合わせて、週2回を基本に個々に沿った支援をしている。	浴室に手摺りやシャワーチェアの設置、浴槽内に滑り止めマットや踏み台を置くなどして転倒防止に留意している。着替えの際に、湿疹など皮膚の状態観察を行っている。「入りたくない」の要望には別日に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調を考慮し、居室で休んで頂く時間も大切にしている。就寝時間が個々に違うので習慣に合わせて休んで頂いている。ゆっくりテレビを観て過ごされている方もいます。居室の温湿度を管理し気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診記録のノートがあり、受診後職員は必ず目を通すようにしている。薬ケースには薬表を貼り付けいつでも確認できるようにしている。服薬時は本人の飲み込みまで確認し飲み忘れの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意思、体調を考慮し負担のかからない活動をしていただいている。又、ドライブなど出かける機会を大事にしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のドライブでご利用者に行きたい所を聞いて出かけている。	外出を入居者の「楽しみごと」として捉えている。追戸横穴古墳公園の花見や東松島、加護坊山、コスモス園、南方菖蒲の郷公園など多方面に足を伸ばしている。ホームに隣接する「おひさま広場」で子供たちのサッカー観戦や夏祭りも戸外活動として楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から家族や友人等へ電話をしたいとのご希望があれば支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくために、職員と共同で作成した四季の作品を飾っている。温湿度を管理し快適に過ごしていただけるように支援している。	おひさま広場は散歩やバーベキューの場所になっているほか、地域に開かれた住民との触れ合いの場所でもある。住職を招き、ホールで法話を聞いた。壁には、皆で作った折り紙の紫陽花や朝顔を飾っている。エアコンや加湿器、ヒーターを備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の行動を制限せずご本人の意思で自由にホールや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。又、ホールでは気の合った者同士が思い思いに過ごせるように席の配置をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な方にはテレビを置き、ご本人の状況によりベットやタンスの位置に配慮している。	自室では書き物をしたり横になるなど、自由に過ごしている。気に入ったスクラップ写真を壁に貼るなど個性の見える部屋がある。各居室の間取りは不揃いで、2人で1室の共有もある。夜間は2時間毎に見廻っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している。		